

題：再建され行く石造りの家 ～ジンバブエ～

外国語学部ドイツ語学部四年 A0152008 星川真樹

卒業論文

要旨：発展途上国と呼ばれる国々は多くの問題を抱えている。何故そのような問題を抱えているのか、其の過程である歴史を遡って考えることで、新たな問題解決策のヒントを得られるのではないかと考えた。歴史は現地の人々の視点によるものと、外部者では異なる。両者を比較することもまた、双方の思考の違いをより明確化するのに効果的であると考えた。何故ならそれはまた、支援国と呼ばれる先進国側と、支援されている側の視点の相違点を示し、其の相違点から現在行われている支援とは別のより効果的支援を思考する糧と為り得るからである。

今回、内側の視点として取り上げるのは、アフリカ大陸南部に位置するジンバブエである。この国に注目した理由は、アフリカの人々によって書かれた歴史書を探していた中で、ジンバブエ発行で現地の人々によって書かれた歴史書、“People Making History”というジンバブエの中学生対象の歴史教科書との唯一の出会いである。

これをきっかけにジンバブエにおける、ジンバブエの人々のこれまでの歩み、彼らの視点で見るアフリカ史を辿りたい。そして、彼らが今後、どのような歩みを目指しているのかを、現地の人々の視点で思考してみたい。そうすることで、発展イコール経済発展・資本主義・民主主義ではなく、発展という言葉には一般性は無く、発展はそれぞれ個々によって異なることが一般的であるのではないかと提言できればと考えている。また、それが互いに違いを尊重し合い、争うことなく、平和に暮らすことに繋がる策の一つなのでは無いかとこの事を考察できればと思っている。

まず、第一章でアフリカ全体の概要を述べることで、アフリカ大陸における多様性を示したい。(参考:表)

第二章では、アフリカ植民地化に関して重点を置く。

第三章でジンバブエの歴史に焦点を絞り、ジンバブエの概要についても記す。

第四章では、ジンバブエの独立までの闘争の足取りを追い、現在の政治に注目する。なぜなら、現状こそが今後のジンバブエを左右して行くからである。そして、ここでジンバブエが今後どのような発展を望んでいるのかを、彼らの視点で考察したい。

第五章では、これらの概要から、自分なりの結論を導きたい。

主要な参考文献：

- ・ M.Prew/J.Pape/R.Mutwira/T.Barnes,1993”People Making History *Book Four*”
Zimbabwe Publishing House Ltd
- ・ 監訳者 日野舜也(1984)『図説世界文化地理大百科アフリカ』朝倉書店
- ・ 外務省情報文化国内広報課(1984),『あふりか アフリカ サハラの向こうの世界』世界の動き社
- ・ 江上波夫,山本達郎,林健太郎,成瀬廉奈治(1998年),『詳説世界史』山川出版
- ・ 責任編集 宮本正興(1992年),『ユネスコ・アフリカの歴史(全八巻)』同朋舎出版
- ・ 監修 伊谷潤一郎,小田英郎,川田順造,田中二郎,米山俊直(1999年) 発行者 下中直人『アフリカを知る辞典』(株)平凡社
- ・ 吉國恒雄 (1999年),『グレートジンバブエ - 東南アフリカの歴史世界 - 』
発行者 野間佐和子 講談社
- ・ 高橋朋子(1997年),『ZIMBABWE ジンバブエ』発行者 市山隆次 長征社
- ・ 駐日ジンバブエ大使館提供資料

表 多様なアフリカの大地の鉱産物

	国名	主要言語	主な天然資源など	独立年	独立直前に植民地化していた国
1	アルジェリア	アラビア語・フランス語・ベルベル語	石油・天然ガス・鉄・リン鉱	1962年	フランス
2	アンゴラ	ポルトガル語・バンツウ諸語	石油・ダイヤモンド・鉄鉱石等鉱産資源豊富	1975年	ポルトガル
3	ウガンダ	スワヒリ語・英語・ルガンダ語	農業80%以上	1962年	イギリス
4	エジプト	アラビア語	石油	1953年	イギリス
5	エチオピア	アムハラ語・ガラ語・英語	農業産品輸出国	1941年	イタリア
6	*エリトリア	ティグリニア語・アラビア語	石油・天然ガス・金・銅	1991年	伊(1890-41)英(41-52) エチオピアと連邦(52-62)エチオピア併合(62-91)
7	*ガーナ	英語・多数の民族言語	ダイヤモンド・マンガン鉱	1957年	英国連邦内自治領として独立、1960年に共和国に
8	カボベルデ	ポルトガル語・クレオール語	セメントの原料として火山灰	1975年	ポルトガル
9	ガボン	仏語・ファン語などバンツウ諸語	石油	1960年	フランス
10	カメルーン	英語・仏語・アラビア語・フルフルデ語・エウォンド語など	石油	1960年	イギリス
11	ガンビア	英語・マンデ語・ウォロフ語など	農作物	1965年	イギリス
12	ギニア	仏語・マリンケ語・フルフルデ語など8民族語	ボーキサイト・豊かな鉄鉱資源	1958年	フランス
13	ギニア=ビサウ	ポルトガル語・クレオール語	ボーキサイト・石油・リン鉱石	1974年	ポルトガル
14	ケニア	スワヒリ語・英語・各民族語	基幹産業は農業	1963年	イギリス
15	コートジボアール	仏語・各民族語	ココア・コーヒー	1960年	フランス
16	コモロ	アラビア語・仏語・スワヒリ語	農業が主産業	1975年	フランス
17	コンゴ共和国	仏語・コンゴ語・リンガラ語など	石油	1960年	フランス
18	コンゴ民主共和国	仏語・リンガラ語・スワヒリ語・コンゴ語など	銅・コバルト・亜鉛・石灰	1960年	ベルギー
19	サントメ=プリンシペ	ポルトガル語・バンツウ諸言語	主要産品はココア・ヤシ油・バナナ・コーヒー等	1975年	ポルトガル
20	ザンビア	英語・ニャンジャ語・ベンバ語など	銅	1964年	イギリス(北ローデシア)
21	シエラレオネ	英語・クレオール語・メンデ語・ラムネ語など	石油・金・紅石・ボーキサイト・ダイヤモンド	1961年	イギリス連邦加わる独立
22	ジブチ	アラビア語・仏語・ソマリ語など	経済はサービス部門に依存	1977年	フランス
23	ジンバブエ	英語・ショナ語・ンデベレ語など	金・アソベスト・ニッケル・銅・クロム	1980年	イギリス(南ローデシア)
24	スーダン	アラビア語・ディンガ語・ヌエル語など	石油	1956年	エジプト・イギリス
25	スワジランド	スワジ語・英語	農業中心・林業・鉱業	1968年	イギリス
26	赤道ギニア	スペイン語・ファン語・ブビ語など	石油	1968年	スペイン
27	セーシェル	クレオール語・英語・仏語	観光業	1976年	フランス・イギリス
28	セネガル	仏語・ウォロフ語・トゥクロール語など	リン鉱石	1960年	フランス
29	ソマリア	ソマリ語・アラビア語・英語・イタリア語	天然ガス	1960年	イタリア・イギリス
30	タンザニア	スワヒリ語・英語・バンツウ諸語	鉱産物(主に金)	1961年	ドイツ・イギリス
31	チャド	アラビア語・仏語・サラ語・トゥブリー語・フルフルデ語	ウラン・タングステン・ボーキサイト・炭酸ソーダ	1960年	フランス
32	中央アフリカ共和国	仏語・サンゴ語・ハウサ語など	ダイヤモンド	1960年	フランス
33	チュニジア	アラビア語・仏語	石油・リン鉱石ほか	1956年	フランス
34	トーゴ	仏語・エウェ語・カブレ語など	石油・ウラン・リン鉱石	1960年	ドイツ・フランス・イギリス
35	ナイジェリア	英語・ハウサ語・イボ語・ヨルバ語など	石油・天然ガス	1960年	イギリス
36	ナミビア	英語・アフリカーンス語・バンツウ諸語	ダイヤモンド・ウラン・銅・亜鉛	1990年	ドイツ・イギリス
37	ニジェール	仏語・ハウサ語・トゥアレグ語など	ウラン	1960年	フランス
38	西サハラ	アラビア語	リン鉱石	1976年	スペイン・モロッコ
39	ブルキナファソ	仏語・モシ語など	金・銀・マンガン	1960年	フランス
40	ブルジン	ルンジ語・仏語・スワヒリ語	国民の90%以上農民	1962年	ドイツ・ベルギー
41	ベナン	仏語・フォン語・ヨルバ語など	農産物中心	1960年	フランス
42	ボツワナ	英語・ツワナ語	ダイヤモンド	1966年	イギリス
43	マダガスカル	マラガシ語・仏語	農業国	1960年	フランス
44	マラウイ	英語・チュワ語・トゥンブカ語等	国土の1/4農地	1964年	イギリス
45	マリ	仏語・バンバラ語・フルフルデ語・ソンガイ語・タマシェク語	金	1960年	フランス
46	南アフリカ共和国	アフリカーンス語・英語・ズールー語・コサ語など11言語	金・石炭・鉄鉱石	1910年	イギリス
47	モザンビーク	バンツウ諸語	砂糖・食物油・カシューナッツ等	1975年	ポルトガル
48	モーリシャス	英語・クレオール語・ヒンディー語	漁業等	1968年	イギリス
49	モーリタニア	アラビア語・仏語・民族諸語	鉄鉱石	1960年	フランス
50	モロッコ	アラビア語・ベルベル語	リン鉱石	1956年	スペイン
51	リビア	アラビア語	石油	1951年	イギリス・フランス
52	リベリア	英語・民族語	鉄鉱石	1847年	アメリカ
53	ルワンダ	ルワンダ語・仏語・英語	経済の根幹は農業	1962年	ベルギー
54	レソト	ソト語・英語	ダイヤモンド	1966年	イギリス

*エトリアとガーナに関しての『独立直前に独立していた国』に他の国も複雑な事情を抱えているが、その中でも特一的であるため、多少詳細を記述した。

* 表 出所：監修 伊谷潤一郎、小田英郎、川田順造、田中二郎、米山俊直(1999年)『アフリカを知る辞典』(株)平凡社 表：作者作成